

# 信玄と家康、死因は胃がん？

## がん社会 を診る

中川 恵一

NHKの大河ドラマ「どうする家康」で、武田信玄との対決が放映されました。

信玄の軍勢は三方ヶ原の戦いで織田信長・徳川家康連合軍を打ち破り、家康は命からがら浜松城に逃げ帰りました。しかしその後、信玄は体調を崩し命を落としました。死因は胃がんの可能性が高いとされています。

一方の家康は天下統一を成し遂げて75歳で亡くなりました。信玄と同様、胃がんが死因と考えられています。



イラスト 中村 久美

今の日本では冷蔵庫や水道の普及で胃がんは減少しています。私が生まれた昭和35(1960)年、男性のがん死亡の6割程度が胃がんによるものでした。胃がんの原因のほとんどを占めるピロリ菌の感染率が高かったためです。

80歳以上の日本人の感染率は今でも8割前後です。信玄や家康の時代、感染率は100%近かったはず。かつて日本では「がんはほぼ胃がん」という時代が長く続きました。

た。胃がんの治療は手術が主役ですから「がん治療はほぼ手術」という図式が出来上がる背景にもなりました。

家康は「健康オタク」でした。伝来したばかりのたばこを吸おうとしないばかりか、子の秀忠の代に禁煙令を出したくらいです。直感的にたばこの害に気付いていたのかもしれない。漢方薬については医者顔負けの知識を持ち、自ら使った調剤道具一式が東照宮に残されています。

家康は粗食と運動を心がけたともいわれます。私もこの連載で書いていますが、運動とカロリー制限はがんを予防し、長寿をもたらします。

完璧な生活習慣でもがん発症のリスクは残ります。運悪くがんになっても早期に見つけて完治させるためにはがん検診が欠かせません。当時、がん検診があったらヘルスリ

テラシーの高い家康のことですから、間違いないく受けていたことでしょう。

家康の死因として、タカ狩りの後に食べた鯛(たい)の天ぷらがよく挙げられます。翌朝から激しい腹痛と嘔吐(おうと)に襲われたという記録があります。側近が天下人の食欲が無いのを案じて勧めたようですが、腹痛や嘔吐は胃がんが原因だったと思われれます。

その前から徐々にやせてきていたこと、侍医の触診で腹部にしこりがあったことなどから、胃がんの可能性が高いと考えられています。

がんが大きくなるには20年といった年月がかかります。関ヶ原の戦いのころには家康のがんは胃の粘膜を侵し始めていたはず。

信玄と家康、二人の胃がんが進行するタイミングが違っていれば、その後の日本の歴史は大きく変わっていたことでしょう。